

令和3年度 小林市立西小林小学校 学校関係者評価書

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	『子どもたちが安心して生き生き学び、のびのび活動する、魅力ある教育の構築』 家庭や地域からの協働の力に支えられ、醸成された教師集団の下、児童の活力ある学習を保障した、より質の高い教育を提供する。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	<p>重点目標 知の基盤づくり（確かな学力の育成）</p> <p>1 学びたい度90%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく読み取り、自分の考えを表現する児童の育成を目指して、一人1回の研究授業を行い、事後研究会で評価を行う。 活用問題（記述式）をもとに5月と11月に学力分析を行い、「授業で心がけたいこと」を明確にした、授業改善に取り組む。 GRT学力検査は、第5学年以外は全国平均より下回っている。しかし、経年分析からは少しずつ向上していることが分かる。また、みやざき県学力調査は（現6学年）、国語、算数とも県平均より低い。西小林地区小中連携の取組をもとに、基礎学力定着の徹底を図る。 タブレットPCの効果的活用を推進する。（1日1回活用） 専科担当教員等による柔軟な指導体制の運用（教科担任制を見据えた対応） <p>2 基礎・基本の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 立腰や鉛筆の正しい持ち方（90%）の徹底 家庭学習での復習の充実 <p>3 言語活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞を活用した「投稿」「スピーチ」等の取組を行う。 辞書引きによる語彙力の向上に取り組む。 ゆめいろ文庫等の読み聞かせ活動と家庭読書の充実を図る。 	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校が好き」「知的好奇心が旺盛」「将来の夢がある」等の「学びたい度」の全校平均は2月現在で93.1%である。（昨年度90%） めあてとまとめの整合性を図ること、音読を効果的に取り入れ、熟考する時間を確保すること、条件を示して書かせること、習熟の時間を確保することなどを視点に、全学級で研究授業を実施した。特に、めあてとまとめの整合性を図ることにより、児童の達成感を高めることができた。 1年生もプログラミング学習を行うなど、タブレットPCを活用した授業実践を数多く行うことができた。現在、家庭への持ち帰りについて準備を進めている。 	3	3	<p>○ 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響によって予定どおりに進まなかったことも多かったと思うが、子どもたちはよく頑張っていると感じている。</p> <p>○ MRTラジオ「私たちの作文」で6名の作文が放送され、たいへん嬉しく感じている。気持ちがよく伝わる表現ができしており、感心している。これからも楽しみにしているので、ぜひ積極的に投稿していただきたい。</p>
		<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に算数の習熟問題については、内容の精選を図ることで個に応じた指導を充実させるとともに、上位の児童にも達成感を味わわせることができるようになってきた。 宅習リレーを行い、児童が互いのノートを見ることで自分の取組を見直し、意欲的に家庭学習に取り組む児童が増えた一方、宿題等の課題が終わらず、次の日に提出できない児童もおり、質の向上とともに課題に取り組ませるための手立てを工夫していく必要がある。 鉛筆の正しい持ち方については、1・2年生の定着率が96.4%（2月末現在）である。今後も根気強く指導を継続していきたい。 			
		<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は宮日新聞「窓」に3名（1年、2年、5年）の作文が掲載された。また、MRTラジオ「私たちの作文」でも6名の作文が放送され、その内の一人は年間銅賞に輝いた。 学校図書館協力員と連携し、児童の興味関心を高めるような図書室設営、企画を行った。コロナ禍で昼休みの貸出が停止した関係で図書貸出冊数が昨年度を下回っているが、読書意欲は高い。児童の興味関心の高い本を購入するなど、今後も指導を工夫していきたい。 家庭読書については、親子読書に取り組み、保護者への啓発を行ったことで一定の効果が確認されたが、家庭での読書量を増やすために、次年度の購入計画などを検討していきたい。 			

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	<p>重点目標 徳の基盤づくり（豊かな心の育成）</p> <p>1 基本的な生活習慣の定着と思いやりの心を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STA（先に、止まって、明るく）運動を推進する。 ・ 無言清掃と後片付け指導を徹底する。 ・ メディアとの望ましい関わり方の指導を充実させる。 <p>2 望ましい人間関係の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童への細かい見届けといじめ、不登校、問題行動等への早期対応を図る。 ・ 「チーム西小林」としての共通理解・共通実践を徹底する。 <p>3 活力ある地域の人財としての児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が自ら企画し、運営する委員会やこすもす科の充実を図る。 ・ KSSVC と連携し、<u>地域人材を活用した学習活動・キャリア教育の充実</u>を図る。 	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつの質を向上させる取組として、児童会を中心にしたあいさつ週間を実施した。STA 運動を意識し、気持ちのよいあいさつができればシールをもらい、学級に掲示する取組を行ったところ、児童の意識が高まった。今後も地域でも気持ちのよいあいさつができるよう、継続して指導を行っていききたい。 ・ 朝のボランティア活動に、低学年から高学年まで多く児童が取り組んでいる。児童会による呼びかけも意欲の向上に役立っていると感じる。 ・ 清掃については、コロナウイルス感染症拡大予防として、異学年の班ではなく、学級ごとの清掃に変更して行っている。 ・ 3～6年生を対象に、スマートフォンやゲーム機器と健康との関係についての講話に加え、参観日の懇談会でネットゲームに関する資料を配付した。今後も生活習慣の改善を含めて学級懇談会等で啓発を図っていく。 	3	3	<p>○ 地域の方へのあいさつも徐々によくなってきているのではないかと。学校内外を問わず、気持ちのよいあいさつができるようになるとすばらしい。</p> <p>○ 昨年度は、SSWとも連携を図りながら見守りを続けてきた児童がおり、心配していたが、今年度は元気に登校することができており、たいへん嬉しく思っている。</p>
	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のスマイル委員会（いじめ不登校対策委員会）で、早期発見、早期解決心がけてきた。不登校につながるような大きなトラブルは発生していないが、今後もきめ細かな観察を継続し、生徒指導主事を中心としたチームとしての対応を行っていききたい。 ・ 7月と12月に「西諸みんなで人権を考える取組」として、各学年で、人権に関する授業実践を行った。学習内容を家庭にも知らせ、感想を書いていただくなど、家庭と連携した取組を行った。 ・ 全校朝会で「ピアサポート」についての話をし、温かな学校づくりについて児童の理解を深める取組を行った。今後は、ピアサポートの考えを生かした授業実践を行い、次年度以降の取組に生かしていききたい。 	<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会集団の中で自己存在感を高めるため、2年ぶりに児童集会を開催した。「学校をよりよくしていくために、全校児童が参加できる取組を考えよう」という目的のもと、活発な意見交換が行われた。取組の一つとしてマスコットキャラクターの募集を行い、全校児童と職員の投票により、6年児童の作品が選ばれた。 ・ 米作りでは、JA 青年部やPTAの協力の下、充実した活動を行っている。他学年においても総合的な学習の時間等で講話を依頼するなど、地域と連携した取組を行うことができている。 ・ 各学年において、地域講師や素材を生かした学習活動が増えてきた。今後は地域のよさを生かした教材開発等にも取り組んでいきたい。 ・ 総合的な学習の時間等では、それぞれの学習内容に応じて積極的に地域講師を活用するなど、地域との連携をさらに進めながら、探究的な学習となるよう指導の充実を図っていききたい。 			<p>○ 地域の方も子どもたちの様子をよく見てくださいるので、今後も協力をいただきながら健全育成に努めていきたい。</p>

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>重点目標 体・食の基盤づくり（健やかな身体の育成）</p> <p>1 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上プランにおいて、9つの項目において、60%以上の児童が県平均を上回る体力をつけるよう体力向上の充実を図る。 ・ サーキットトレーニング、朝のストレッチ体操 ・ 教育活動全体を通した体育活動の実施（運動会、持久走大会、なわとび大会等） <p>2 健康的な望ましい生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「早寝・早起き・朝ごはん・歩いて登校」と衛生的な手洗いの習慣化 ・ 肥満傾向児童の肥満率の改善に向けた健康相談の充実（肥満率の減少） ・ むし歯の治療率向上（90%以上）と予防指導（フッ化物洗口など）の取組に努める。 <p>3 将来にわたる望ましい食習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の時間や学級活動での食に関する指導の充実を図る。 ・ 給食の残食量の減少に努める。（1%未満） ・ 発達の段階に応じた効果的な「弁当の日」を実施する。（取組率100%） 	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月に実施した新体力テストでは、県平均を上回った種目が5種目（62%）であった。落ち込みの見られた「立ち幅跳び」について、11月に再度測定を行ったところ、すべての学年で記録の伸びが確認された。主運動につながる補助的な動きを繰り返し行うなど、体の使い方や動かし方についても継続して行うことにより、記録向上が見られることを再確認した。 ・ 春季運動会は、学年部ごとに表現、リレーを選択して行い、徒競走だけのプログラムにならないようにした。コロナ禍ではあるが、地域に開かれた学校づくりの観点からも開催の在り方について検討を行っていきたい。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も家庭と連携を図りながら食育指導を充実させてほしい。 ○ 春季運動会のプログラムが工夫されていて、走る競技だけではなく、表現運動なども取り入れられていた。新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、昼食の有無を含めた開催の在り方について検討を進めていただきたい。 ○ 子どもたちは、コロナ禍にあっても、勉強や運動に本当によく頑張っていると感じている。
		<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寒さが厳しい季節になると手洗いの回数が減る傾向が見られたので、感染予防の意識を更に高めるような手立てを工夫していきたい。 ・ ほとんどの児童が集団登校で「歩いて登校」を実践している。 ・ 肥満率35%を超えた児童3名には生活改善表を与え、個別の保健指導を行った。 ・ むし歯の治療率は2月18日現在55.6%である。コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、受診を控えている家庭もあると考えられる。昨年度から先行実施しているフッ化物洗口は、1年生も問題なく取り組むことができた。コロナウイルス感染症の影響で、2/16現在も一時中断している。 			
		<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も夏休みに「食の贈り物」と題して、家族に食事の準備をするという宿題を課したが、ほとんど全員が提出した。 ・ 弁当の日を年1回（お別れ遠足）計画し、それぞれの家庭でできるコースを選んで実践している。 ・ 残食については献立によって差があるが、全体で0.7%（4～8月）となっており、昨年度の同時期と比較して改善している。 			

次年度の方向性についての校長所見

本年度も感染症予防対策を基本に据え、教育計画の変更を行いながら実践を重ねてきた。当初の予定どおりに進まないこともあったが、教育の質を落とすことなく、充実した教育活動になるよう職員一丸となって尽力し、今日の成果を得た。これも、保護者や地域の方たちの深く温かい理解と協力の賜であると感謝している。今後、明らかになった課題解決に向けて、次年度も鋭意努力していく所存である。

学校関係者評価を受けて、次年度は次の点において重点的に取り組んでいきたい。

○ 知の基盤づくり（確かな学力の育成）

- ・ 引き続き読解力及び表現力の育成を研究の軸に据えながら、児童自ら自分の考えを伝えあい、互いに深めあうことのできるような指導の工夫・改善を図るとともに、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく。特に、児童一人一人のつまづきを大事にし、習熟の時間をしっかり確保した上で見届ける指導を行い、それぞれの課題解決を図っていきたい。

○ 徳の基盤づくり（豊かな心の育成）

- ・ 中学校区で取り組んでいるあいさつ運動を校外にも広げ、地域でも明るく元気なあいさつが実践できるよう意識付けを図ってきたい。また、令和4年度、5年度の「道徳教育研究指定」を受けて、中学校との連携した研究を更に推進してきたい。

○ 体・食の基盤づくり（健やかな身体の育成）

- ・ サーキットトレーニングやストレッチ運動などを取り入れ、体育の時間の指導の充実を図りながら、児童がすすんで運動に親しむ態度の育成に努めたい。また、コロナ禍でマスク着用ではあるが、日常生活での運動量確保の手立てを工夫し、生涯にわたって健康増進に努める基盤づくりを行ってきたい。
- ・ 感染症予防の観点から、マスク着用や手洗い・うがいの励行など、基本的な生活習慣の徹底について、家庭との連携を図りながら指導を継続してきたい。
- ・ 「食の贈り物」や「弁当の日」の取組を継続し、家庭と連携しながら食育の充実を努めていきたい。

○ その他

- ・ にっこばまちづくり協議会を中心とした地域との連携を更に推進するとともに、ゲストティーチャーを迎えたキャリア教育を充実させ、学校と地域とが一体となって相互の課題を解決できるよう取組の充実を図ってきたい。